
断罪者と呪われた亡霊剣士2

クロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

断罪者と呪われた亡霊剣士2

【Nコード】

N3182I

【作者名】

クロ

【あらすじ】

戦乱の世から200年たった今…
新しい冒険が始まるうといていた………

ドキドキシリーズ

ギャグ&バトル多めな小説です

断罪者2 (前書き)

残酷な描写が含まれる事がありますが…
よろしいでしょうか？

断罪者2

第2章

「牙我！！牙我！！目を開けてよ！！」

「ん…ここは…？」

ゆっくりと目を開けると眩しいくらいの日之光に思わず目を細める。目の前には泣き晴らした赤い目の蓮華が居た。

まだ頭は痛い。蓮華から水をもらっていくらかはマシになってきた。

「俺は…一体…」

「あんた疲れ過ぎなのよ！！」

蓮華の説明によると過労のし過ぎで倒れたらしい。

過労のし過ぎ？大人じゃあるめえし…

それにさっきのは…夢…？

やけに鮮明にはつきりと思いだせる。

あの気味の悪い歌を思いだして思わず身震いした。

「牙我…寒いのか？」

気遣った様子の蓮華にあわてて否定するとため息をついた。

「断罪か…」

あれは何だったんだ？それに俺が何の断罪を犯したって言う。

「断罪…？」

「何か知ってるのか蓮華！？」

「うん…この地方に伝わる有名な伝承の中にな

確か断罪の唄って言うのがあったと思う。」

昔々あるところに
お国のためにと闘って
戦で死んだ亡霊が
骨火山の頂きから
悪い子を迎えにくるよ
断罪だゝ 断罪の子は
骨火山に連れてかれるよゝ

「その…歌だ…」
あの時の記憶が頭の中を駆け巡る。

ん…よく考えればこの唄おかしくないか。
何で戦で戦って死んだ奴らが断罪者を迎えに来る。
もしかして…他にもこの中に込められた意味が……

無い知恵を使つて考えている俺を何事かと蓮華は騒いだが、気にしないでおこつ。

「あんた！！また変な事考えてるんでしょ！！」
うっ…またガミガミ説教する気が…

「もう…いい加減にしなさいよ…」
「えっ…」

予想外だった。

まさかあの気が強い蓮華がいきなり泣きだすなんて…！？

「ちよっ！？俺なんかした？」
俺は慌てて弁解しようと思死に右往左往する。
蓮華は違つと言つて首を縦に振つて
顔をあげると真っ直ぐにだけど力強い光を宿した瞳で

「あんたまで…私の前から居なくならないでよ…」

つーと涙が頬を伝って落ちる。

今まで思ってたよりもこの少女は強いのかも知れない。

蓮華は俺がずっと見てたせいかならずかそうに笑って慌てて涙を拭いた。

「ごめんね…何か変な空気にして……私そろそろ家に帰らなきゃ」

「ん…？」

外を見るともう太陽が沈みかけていた。

どれくらい寝てたんだろう。

「蓮華…またなっ」

「うん！！今度は授業サボるなよー！！」

はいはい…蓮華を家の近くまで見送ると来た道を戻り始める。

ガサガサッ

「!？」

辺りの森で何かか蠢いてる音が聞こえた。

気味が悪くて俺は周りに警戒しながら速足で家へと向かう。

家が見え始めた時だった。

何か黒い影が見えた。

あれは…何だ…？

断罪者2（後書き）

最後まで御観覧感謝申し上げます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3182i/>

断罪者と呪われた亡霊剣士2

2010年10月25日17時15分発行